

令和6年能登半島地震 JRAT活動報告

済生会山形済生病院

安倍 恭子

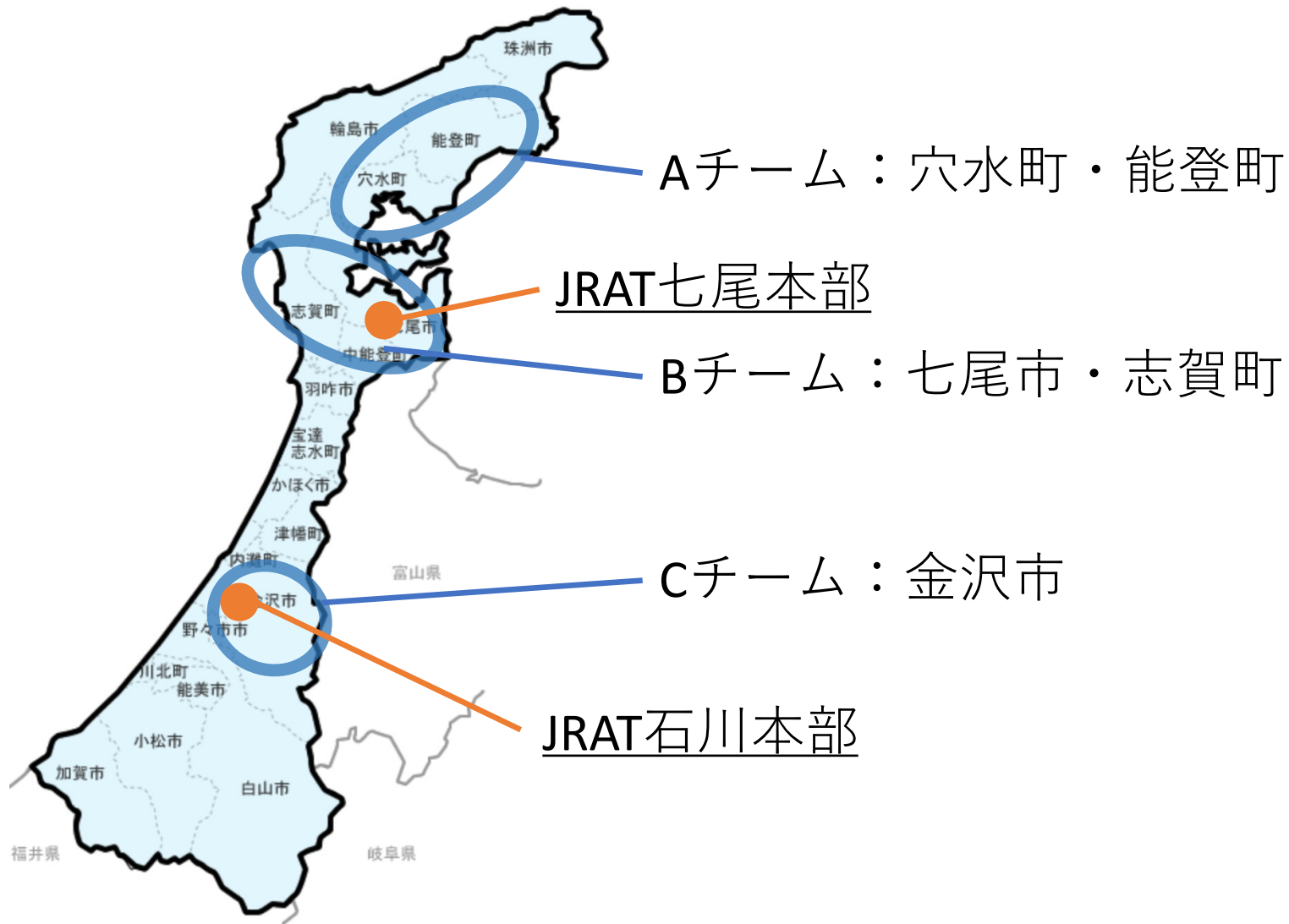
■ 活動期間：2024年1月15日～1月19日 （発災14～18日目）

■ 参加スタッフ：計16名（3チーム編成）







	Dr	PT	OT	ST
Aチーム (穴水)	高木理彰 (たかぎ みちあき)	荒川 忍 (あらかわしのぶ)	村川 美幸 (むらかわ みゆき)	
		今田 和希 (こんた かずき)	太佐公亮 (たさ こうすけ)	
Bチーム (七尾)	岩丸力也 (いわまる りきや)	濱田 美香 (はまだ みか)	鈴木俊 (すずき たかし)	
		安倍 恭子 (あべ きょうこ)	阿部恵一郎(あべ けいいちろう)	
Cチーム (金沢)	成田 亜矢 (なりた あや) 鈴木 瑛嗣(すずき あきつぐ)	加藤 以知子(かとう いちこ)	辺見 大剛 (へんみ ひろたか)	小林 千夏 (こばやし ちなつ)
			宇野正紀 (うの まさのり)	

■ 移動方法：山形-金沢間 新幹線
現地 レンタカー

■ 活動地域 (A・Bチーム活動地域は断水中)



■ 活動日程

1/15 (月)		7:08 山形駅発 (大宮経由) 11:52 金沢駅着 JRAT石川本部 (金沢市) で必要手続き・情報収集	金沢市内宿泊
1/16 (火)		各チームの活動先へ	
1/17 (水)			
1/18 (木)		16:00 全チーム石川本部 (金沢市) で集合	金沢市内宿泊
1/19 (金)		いしかわ総合スポーツセンター 見学 11:59 金沢駅発 (大宮経由) 17:46 山形駅着	

■ 宿泊先

Aチーム（穴水総合病院リハビリテーション室）



電気：○ 水：○ トイレ：仮説トイレ 寝具：プラットホーム＋寝袋
穴水総合病院 リハ医 影近先生が同行

■ 宿泊先

Bチーム（七尾市 恵寿総合病院保有の施設）

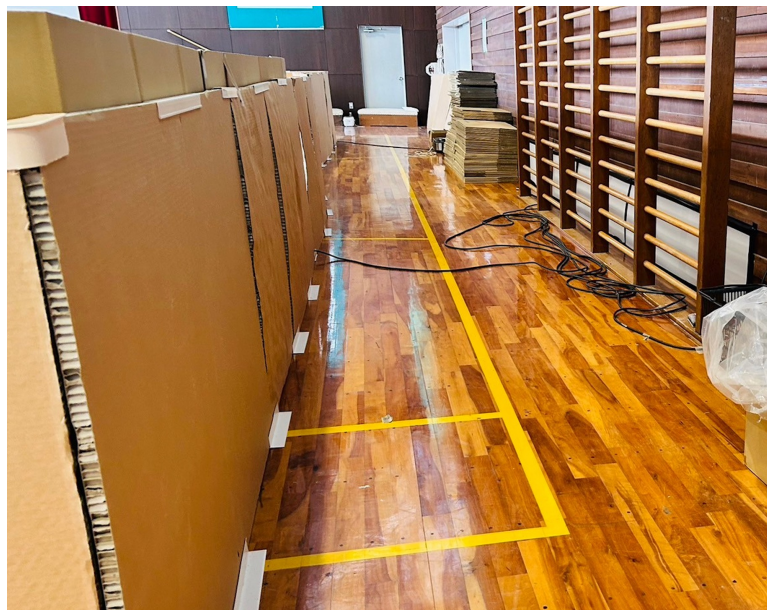


電気：○ 水：× トイレ：病院のトイレ使用 寝具：寝袋

■ 活動内容

避難所環境アセスメント

ライフライン、生活環境、衛生状態、動線等チェック
ラピッドアセスメントシートに記載して共有



施設・避難所等ラピッドアセスメントシート (OCR 対応様式) ver.190115

□の欄は、使用可能・該当・対応済であれば、✓を入れてください
* A: 充足 B: 改善の余地あり C: 不足 D: 不全

調査日		2	0																	
		AM	P	M																
調査者氏名		調査者所属																		
電話番号		電話番号																		
施設名		所在地																		
所在地		避難所運営組織																		
		代表者名																		
避難者数 (人)		避難者数 (再掲)																		
		ライフライン / 通信																		
		衛生環境																		
要配慮者 (人)		要配慮サポート (人)																		
有症状者 (人)		罹病者数 (人)																		
その他緊急事項																				

問合せ先: 芝浦工業大学 システム理工学部
市川 学 (michi@shibaura-it.ac.jp)

ラピッドアセスメントシート

■ 活動内容

環境整備 (例)



①土足の床に布団を敷いて雑魚寝の避難所



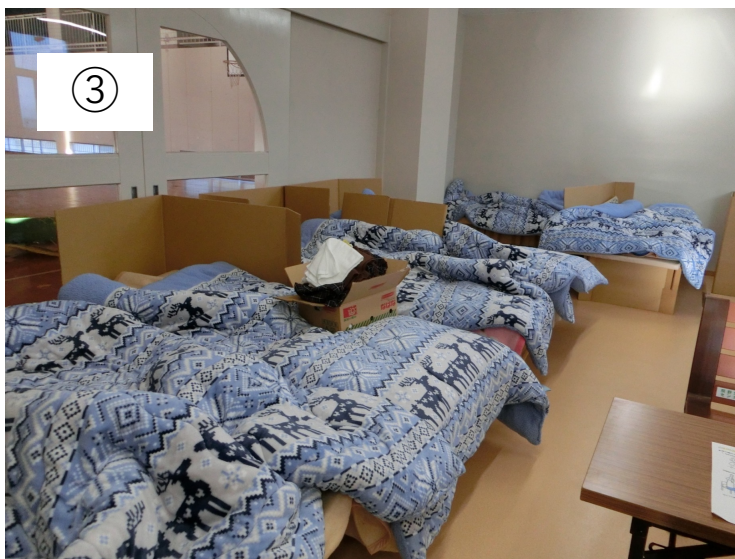
②ダンボールベッド作り



③土足禁止エリア分けして環境整備



④動線の確認



■ 活動内容

生活不活発病予防



地元の「シルバーリハビリ体操」を避難者の方同士で実施できるよう導入のお手伝い

DVT予防・スクリーニング



実際に足を見せていただき、DVT疑わしい場合は医師に相談

■ いしかわ総合スポーツセンター：金沢市

1.5次避難所

1月23日現在 380名収容

- 体育館等の1次避難所→ホテル等の2次避難所の中継地点として日本で初めて設置
- 数日間の滞在を想定
- 高齢者、障がいのある方、未就学児とその家族を優先 → 要介護・要支援6割

➡ 口腔や嚥下機能のスクリーニングの必要性高くST需要が高い



■ 本部の様子



- 1月16・17日は山形済生病院 安倍が七尾本部 ロジスティックを手伝った
- 七尾本部ロジはPT北谷先生（石川県士会長）、OT高間先生（自動車学校勤務 / JRAT経験なし）のお2人で全てのロジ業務をになっていた。お2人とも自らも被災している。
- 現在は七尾本部にもRRTが派遣されている

■ 今回の活動のトピックス

- 発災14日目と早期の活動であり、断水、余震が続いていた。
- 奥能登は活動の安全確保に不安がありJRAT未派遣であったが、Aチームが現地のリハ医Drと繋がり、同行できたことで活動可能であることが示され、その後JRATチーム派遣に繋がっている。
- Cチームは、日本初の1.5次避難所で活動した。要介護・要支援者が多くSTニーズが高かった。
- 本部ロジスティックを手伝う機会をいただいたが、とても重要な仕事であり、かつ膨大な仕事量であることがわかった。自らの地域が被災することも想定し、RRTスタッフを育成する必要があると感じた。

* RRT (Rapid Response Team) : 大規模災害直後から早期に情報を収集し、現地での本部立ち上げや、支援を必要とする初動対応を行い、被災地のJRAT体制が整うまで支援することを目的とする。研修制度あり。